



待ちわびていた春が、あたたかい陽ざしと心地よい風につつまれてやってきました。
みなさん元気でおすごしでしょうか。まだ妙高へいらしたことがない方もどうぞお気軽にご来園ください。お子さんもおかあさんも新しい春をみんなで楽しみましょう。

2023年度4月の予定 『キッズのおへやと園庭開放』

〈開催日時〉

20日(木)・27日(木)

午前10時15分より受付

午前10時30分～11時30分

※申し込み順にお受けし、定員になり次第締め切らせていただきますので、希望される方は早めにお申し込みをお願いします。

なお、参加される方は、玄関にて、検温、消毒、「健康チェックリスト」の記入をお願いします。

ただし、以下の状況にある方はご参加いただけませんのでご理解下さい。

- ・48時間以内の発熱や当日の体調不良のある方。
- ・コロナウイルス陽性の人との濃厚接触の可能性のある方。
- ・ご家族に発熱や体調不良がある方。
- ・ご心配のある方は事前にご相談いただきますよう、よろしくお願いいたします。

〈持ち物〉スリッパ(上靴)・・・感染予防のためご持参下さい。

※新型コロナウイルスの感染状況等により、活動を延期または中止させていただく場合がありますのでご了承ください。

要予約 先着10組お受けします。

〈妙高キッズクラブとは〉

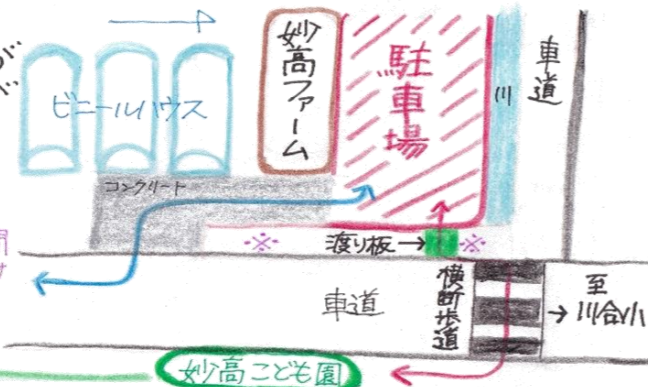
- ・0歳から未就園の親子のみなさんに遊んでいただける場です。
- ・登録(入会)は随時行っていますので、お気軽にお申し込み下さい。
- 新規登録される方には入会費(保険料)500円をいただきますが、市販されていないアンパンマングッズをプレゼントしますのでどうぞお楽しみに!
- ・登録済みの方からは新たに保険料はいただきません。住所や電話番号などに変更がある方はご連絡下さい。

〈妙高こども園前、駐車場のご案内〉

※車道と駐車場の間に段差がありますが、県の管理下で当分は埋めたいたくことができませんので、行事の時のみ渡り板を設置します。この渡り板を通して横断歩道を渡り園舎へお越し下さい。

車の出入口
歩きの進路

※車道と駐車場の間の段差にお気をつけ下さい。



子育てワンポイント — ♡ どう向き合う!? 子どものいやいや期 ♡

〈いやいや期ってなに〉

「いやいや期」は他者への認識が進み、自分と他の人との違いがわかってきたり、自分の物と人の物が区別できるようになったりする時期に起こってくる子どもの発達上必要なプロセスです。大人の視点で見れば素直だった子が扱いにくくなる、非常にやりにくい時期ということになるのですが、見方を変えれば、まだ十分に言葉で自分の意思を伝えることのできない子どもが、自分の気持ちや要求を伝え、表現しようとしている姿です。つまり、子どもに自分の考えを主張するだけの力がついてきた証拠です。



〈いつ頃から始まるの?〉

個人差はありますが、だいたい1歳後半から2歳半くらいまで。突発的に起きるわけではなく、感情や思考力、意思を伝えるためのスキルは0歳の時から育っています。子どもたちはそれらを使って自分の中にある感情をあれこれ試しながら外に出していくのです。この時期に自分の意思や感情を表現して大人とやり取りをしたり、自分の中の感情と向き合いつつ折り合いをつけ、感情をコントロールできるようになっていくのはすべての子どもが通過する発達のプロセスです。

Q. 私(ママ)だけに反抗するんです。

A. ママだけに反抗するというのは『ママが大好き』の裏返しです。ママが大好きでいつもママを見ているから、今度は私のことも「みて!みて!」と言っているのです。「みて!みて!」と言っている時はきちんとアイコンタクトをして、その気持ちを受け止めましょう。しっかり受け止めてもらえたと感じると、少しずつ「いやいや」は減っていくでしょう。

Q. 友達と仲良くあそべません。

A. この時期の子どもは、まだ「友だちと一緒にあそぶ」ことは難しいのです。隣同士でお互いのやっていることを時々見ながらニコッと笑ったり、ちょっと近づいてみたりしていることが多いのです。この時期は「仲良くあそぼうね」ということより、それぞれのあそびを大切にすることが大切です。心配しなくても大丈夫です。

Q. 子どもをかわいいと思えない時があるんです。

A. よくあることです。ふりまわされて疲れたときはあえて子どもにくっついて子どもからエネルギーをもらいましょう。離れようとするほど子どもは不安でくっついてきます。「ママ疲れたから充電させて」とだっこしたりしてみましよう。子どもと接触することで脳内ホルモンが出てストレス耐性も高くなります。

♡ いやいや期は終わります♡

子どもの成長によって「いやいや期」は出現し、また更なる成長によって3歳の終わりごろには消えていきます。それは子どもの激しい感情や困った行動自体が消滅するのではなく、語いの少なかった子どもが発達によって自分の気持ちをもっと詳しく伝えることができるようになったり、周りの大人や友達がその子の気持ちをもっと理解できるようになったりするからです。